

第2回 TCER 経済セミナー

[パネル・ディスカッション]

経済学で考える女性活躍

～社会の発展と企業の成長を支える力～

日時：2024 年 11 月 29 日 (金) 19:30～21:00

会場：オンライン（一般公開）、

東京大学伊藤国際学術研究センター・特別会議室（招待者限定）

主催：東京経済研究センター（TCER）

■概要

- ◆ 近年、日本が抱える様々な男女間格差の問題は、世界からも指摘を受け、政策的には企業に対して男女間の賃金差の開示が義務付けられるなど、解決すべき社会問題としてますます注目されています。
- ◆ 女性が安心して活躍できる環境を創っていくことは、貴重な人的資本を有効に活用し、企業の成長、社会の発展を推進することにもつながります。
- ◆ 本セミナーでは、データに基づいて家族や労働の問題を分析してきたフロンティアランナーたちが、生物学的な性差と生産性の関係、女性の稼得能力と出生、出産・育児に起因する男女間格差の問題などに着目しつつ、より良い社会・企業を創っていくために何が必要かを考えていきます。

■登壇者

パネリスト：

- ◆ 黒田祥子（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）
- ◆ 近藤絢子（東京大学社会科学研究所教授）
- ◆ 山口慎太郎（東京大学大学院経済学研究科教授）

司会：

- ◆ 植田健一（東京大学金融教育研究センター長、東京大学大学院経済学研究科教授、公益財団法人東京経済研究センター代表理事）

■参加申し込み

本イベントは、**オンライン（ZOOM）にて一般公開**いたします。

参加登録は、下記 URL のフォームまたは QR から（**定員 300 名、先着制**）。

後日、参加用の URL 等の詳細を、メールにてご案内いたします。

URL https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScVr93ojSWb5G4l3Lkjl_0OfoyM5cjMlqKAEVQHMwT6-LOL9w/viewform



■プログラム

- ◆ 19:30～20:15 パネリスト 3 名による講演
- ◆ 20:15～20:50 パネル・ディスカッション
- ◆ 20:50～21:00 Q&A（会場およびオンラインから）

■ご留意

- ◆ 本イベントは、一般オンライン公開です（対面参加は招待者限定）。
- ◆ 講演およびディスカッションは日本語で行われます。
- ◆ イベントの内容は後日、『経済セミナー』誌（日本評論社）に収録予定です。

■登壇者紹介（五十音順、敬称略）

植田健一（うえだ・けんいち）

- ◆ 東京大学大学院経済学研究科兼公共政策大学院教授、同大学金融教育研究センター（CARF）センター長。
- ◆ 大学外では、東京経済研究センター（TCER）の代表理事の職にあるほか、政府関係では、関税・外国為替等審議会委員なども務めている。パリにある欧州の経済学者中心の団体の CEPR のアソシエイトフェローの他、シンガポールにあるアジアの経済学者中心の団体の ABFER のフェローでもある。
- ◆ 研究テーマは、金融システムとマクロ経済の相互関連であり、これまで、*Review of Economic Studies* や *Journal of Economic Theory* などトップレベルの学術雑誌に研究論文を掲載。著書に『金融システムの経済学』（日本評論社、2022 年）、『国際金融』（服部孝洋と共著、日本評論社、2024 年）がある。
- ◆ 2000 年にアメリカ・シカゴ大学で Ph.D.（経済学）を取得後、2014 年まで約 14 年間、国際通貨基金にてエコノミスト、後にシニアエコノミストとして、主に調査局で勤務した。東京大学経済学部卒業後、大蔵省での勤務経験もある。

黒田祥子（くろだ・さちこ）

- ◆ 早稲田大学教育・総合科学学術院教授、同大学総合研究機構ウェルビーイング & プロダクティビティ研究所所長。
- ◆ 大学外では厚生労働省「労働政策審議会」「社会保障審議会」、各省の検討会・研究会等の各種委員、経済産業研究所（RIETI）ファカルティフェロー、（株）東京大学エコノミックコンサルティング（UTEcon）アドバイザー、一般社団法人人材サービス産業協議会理事なども務める。
- ◆ 専門は労働経済学であり、最近の主な研究テーマは長時間労働・働き方改革・働き方が健康や生産性に及ぼす影響等。主著に『労働時間の経済分析 超高齢社会の働き方を展望する』（共著、日本経済新聞出版社、2014年：第57回日経・経済図書文化賞受賞、第38回労働関係図書優秀賞受賞）、最近の論文として“The Impact of a Mobile App-Based Corporate Sleep Health Improvement Program on Productivity: Validation through a Randomized Controlled Trial,” *PLOS ONE*, 2023（共著）, “Exemption and Work Environment,” *Industrial Relations*, forthcoming, 2024（共著）など。
- ◆ 慶應義塾大学経済学部卒、同大学博士（商学）。日本銀行金融研究所勤務、一橋大学経済研究所助教授、東京大学社会科学研究所准教授を経て、2014年より現職。

近藤絢子（こんどう・あやこ）

- ◆ 東京大学社会科学研究所教授。
- ◆ 大学外では、経済産業研究所（RIETI）ファカルティフェローを務める他、雇用政策に関連する政府関係の会議の委員の経験も複数ある。TCER フェロー、Institute for the Study of Labor（IZA）リサーチフェロー。
- ◆ 専門は労働経済学、公共経済学であり、これまでに *Journal of Public Economics*, *Journal of Human Resources* などの国際学術雑誌に研究論文を掲載してきている。著書に『就職氷河期世代：データで読み解く所得・家族形成・格差』（中公新書、2024年）がある。
- ◆ 2001年に東京大学経済学部卒業、2009年にアメリカ・コロンビア大学にてPh.D.（経済学）を取得。大阪大学講師、法政大学准教授、横浜国立大学准教授などを経て、2020年より現職。第19回（2022年度）日本学術振興会賞および日本学士院学術奨励賞を受賞。

山口慎太郎（やまぐち・しんたろう）

- ◆ 東京大学大学院経済学研究科教授
- ◆ 大学外では、内閣府・男女共同参画会議議員なども務める。
- ◆ 専門は労働市場を分析する「労働経済学」と結婚・出産・子育てなどを経済学的手法で研究する「家族の経済学」。著書『「家族の幸せ」の経済学』（光文社新書）で第 41 回サントリー学芸賞を受賞。『子育て支援の経済学』（日本評論社）は第 64 回日経・経済図書文化賞を受賞。2021 年には日本経済学会石川賞を受賞。
- ◆ 1999 年に慶應義塾大学商学部卒業。2001 年に同大学大学院商学研究科修士課程修了。2006 年にはアメリカ・ウィスコンシン大学にて Ph.D.（経済学）を取得。カナダ・マクマスター大学助教授、准教授、東京大学准教授を経て 2019 年より現職。

■公益財団法人 東京経済研究センター（略称：TCER）

1959 年に財団法人として設立（2010 年より公益財団法人）。設立以来、多くの経済学者が参加して主に以下の事業に取り組み、日本の先端的な経済学研究の中心を担ってきた

- ① 大学を越えた研究者の緩やかな共同研究組織としての役割
- ② アカデミックな研究成果を社会に還元するための活動
- ③ 若手研究者の育成、サポート、および研究者間の交流を促進
- ④ 日本に関する研究成果を中心に世界に発信する学術誌 *Journal of the Japanese and International Economies* 刊行の後援

主に東京の 4 つの大学＝東京大学、一橋大学、慶應義塾大学、早稲田大学の研究者が理事として運営を担っている。

TCER について：

<https://www.tcer.or.jp/about/>